建築業の大切さ、おもしろさを伝えるモン！

熊本の土木と建設業の魅力を発信！

2015年 秋号

どぼくま新聞

©2010熊本県くまモン

発行 熊本県土木部監理課 ☎096-333-2485

「どぼくま新聞」とは

「どぼくま新聞」は、私たちの身近なところにあるけれど、あまり知られていない建設業の役割やさまざまな情報について、紹介していく新聞です。

探検！発見！山鹿の建物

ぼくたちが調べてきたよ！

(左から)山鹿市立千田小学校6年高山兼僮くん、同小5年服部由希くん、同小2年服部由奈ちゃん

熊本県の北にある山鹿市。ここには、江戸時代様式の芝居小屋をそのままに残す八千代座や、有名な建築家が設計をした県立装飾古墳館など、古いもの、新しいもの、さまざまな建物や施設などがあります。どんな建物なのかな？

八千代座

つくる部キッズがゆく

豪華絢爛な内装！

明治時代の看板が天井にずらり。「昔の感じがするね」

人力で動く大仕掛け

舞台の地下にある棒を押し「回り舞台」を動かします。

昔の建物みたいだね。いつ建てられたの？中はどうなっているの？

1910(明治43)年に建てられた、芝居小屋(歌舞伎などを見る場所)だよ。舞台下にある「奈落」と呼ばれる場所では、役者が舞台に飛び上がったり、舞台が回ったりする仕掛けが隠されていて、建設当時高い技術があったことが分かるんだ。この仕掛けは、昔も今も人の力で動かしているよ。

1986(昭和61)年から、古くなった建物を元に戻そうと、山鹿市民が立ち上がって募金活動などが始まったんだ。その後1996(平成8年)から、「平成の大修理」がスタート。建設当時の姿になるよう工事が行われたんだ。建物の中には、100年以上前の柱や壁、床板などがそのまま残っているよ。

1300年前の山城から近代建築までおもしろ建物がいっぱい

山鹿の建物探検に集まった高山兼僮くんと服部由希くん、由奈ちゃんの3人。

1300年前の山城を再現した鞠智城や、明治時代から生き続ける八千代座、明治の建物を再建したさくら湯、近代建築の装飾古墳館や石渕河川公園を見学しました。

見学を終え「知らないことがいっぱいあった。これから建物がどんな風にできているか、構造を観察してみると面白そう」と、「つくる部キッズ」ならではの感想を話してくれました。

1992(平成4)年にオープンした博物館。世界的に有名な建築家の安藤忠雄さんが、正方形と円がつながった「前方後円墳」の形をイメージして考えたんだよ。建物の入り口から入り、円の部分を回りながら坂道を下っていくと、展示室へと到着。くるくると下ることで、現代から古代へとタイムスリップする気分になるようにという思いが込められているんだ。

つくる部キッズになろう！

みんなの笑顔、ふるさとの未来をつくる建設業。

そんなかけがえのないものをつくっている建設業に携わっている人たちと、「つくる」ことに興味を持っている仲間の集まりが「つくる部」です。君も身近にある道路や橋、建物などに興味を持って「つくる部キッズ」になろう。

装飾古墳館

四角いところと、丸いところがあるよ。何の形なんだろう？

3人に説明する装飾古墳館学芸員の菊川知美さん

そのほかにも、すごい建物がいっぱいだよ！

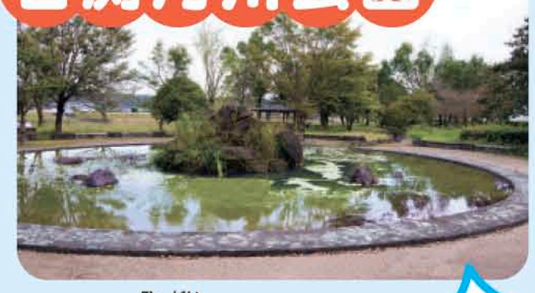
さくら湯

上から見た図

屋根が＋の形になっているんだって！面白いね♪

明治時代から山鹿の人たちのお風呂として愛されてきた「市民温泉」。建物の形が変わりながらも大正、昭和、平成と営業を続けてきたんだ。そして、明治時代のふん囲気を取り戻すため、2012(平成24)年に再建。南北から入れるよう、十字クロス構造になっているところが、大きな特徴なんだよ。

石渕河川公園



大きな被害のあった、1990(平成2)年の水害の後に建てられた公園。大雨が降って川が増水しても水があふれないよう、川岸の堤防を工事し、周りに公園を整備したんだ。池や広場が作られているよ。

「人や家を災害から守る」ために行う工事もあるんだね

鞠智城

7世紀後半の飛鳥時代、大和朝廷が築いたとされる山城を再現。シンボルとなる八角形の建物「鼓楼」は、太い柱が合わせて81本も使われているんだ。ここから太鼓を鳴らし、時や危険を知らせたと考えられているよ。そのほかにも、米や武器を保管した建物などがあるよ。

機械のない時代に、人の手で建てたなんてすごい!!